

月こばやしたかゆき 刊小林鷹之からの手紙



政治主導にむけて

朝霞公務員宿舎について。

政治家と官僚について。

議員定数削減について。

絆を力に。2011年 Vol.5 [討議資料]

自由民主党

千葉県第二選挙区支部 小林鷹之事務所発行
(八千代市・習志野市・花見川区)



編集後記

皆様こんにちは。季節の変わり目ですので、体調管理には気をつけて下さいね。さて、11月16日に「小林鷹之と共に語る会」を開催致します。元外交官として小林が世界から見た日本についてお話しさせていただきます。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。(スタッフ)

小林鷹之と共に語る会

日時： 11月16日(水) 18:30~20:00

会費： 100円(お茶代)

場所： 八千代市総合生涯学習プラザ
八千代市ゆりのき台3丁目7-3(八千代中央駅より徒歩約5分)

お申し込み方法

席数に限りがあるため、ご参加いただける方は、小林鷹之事務所までご連絡の上お越しください。電話番号 **047-409-5842**

鷹之ブログ ameblo.jp/kobahawk

日々のニュースを、わかりやすく解説しながら自身の意見を述べているブログです。ぜひお読み下さい。

twitter twitter.com/kobahawk

1歳の娘のことから天気のこと食べ物のこと、気になったことをほぼ毎日つぶやいています。

ホームページ www.kobayashi-takayuki.jp

小林鷹之についてもっと知りたい、ボランティアに応募したい方、献金案内はこちらから。

小林鷹之事務所からのお知らせ

小林鷹之事務所では

- ・ボランティアをしていただける方
- ・ポスター掲示場所をご提供して下さる方
- ・ミニ集会を開催して下さる方(小林本人が伺います!)

からの御連絡をお待ちしております。

お電話またはメールにてお気軽にお問い合わせ下さい。

右下のQRコードをご利用いただいて、小林鷹之ホームページからでもご連絡いただけます。

TEL: **047-409-5842** FAX: **047-409-5843**

Email: info@kobayashi-takayuki.jp

自由民主党千葉県第二選挙区支部小林鷹之事務所

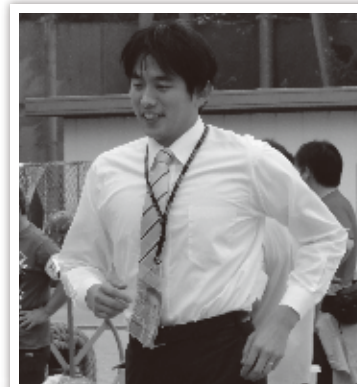
〒276-0042

千葉県八千代市ゆりのき台 3-3-5

アットホームセンター第2ビル 202号室



活動報告



◀地元の運動会にて競技にも参加させていただき、皆様と共に走り回りました。気持ちの良いひとときを過ごさせていただきました、ありがとうございました。



▶企業の工場にてプレハブ住宅や化学製品の工場を見学。日本の技術力の高さを改めて認識しました。



▶地元の敬老会にて子供たちとご年配の方々との触れ合いに心が温まりました。



小林鷹之プロフィール

東京大学法学部卒業。平成11年大蔵省(現財務省)入省後、財政運営から国際金融に至るまで幅広い分野の政策立案を担当。在米日本大使館に出向した際、急速に変化していく国際社会の中で、日本が為す術もなく取り残されていく

姿に危機感を抱き、2010年春財務省を退職。公募を経て自由民主党千葉二区支部長就任。現在36歳。

政治主導へ向けて

先日、朝霞の公務員宿舍の建設を五年間凍結するとの決断を野田総理が下しました。二年前に民主党が事業仕分けで凍結したものを、総理が財務大臣時代に自ら凍結を解除し、そして今回再び凍結。この経緯を見ていて、政治主導への道のりはまだ遠いと感じました。

政治主導の鍵は、政治家と官僚の役割分担にあります。政治がビジョンに基づく政策の大きな方向性を決断し、官僚に着実に実行させる、そして、結果については政治が責任を取る。飽くまで道具である包丁(官僚)

を振り下ろすのは腕(政治)であり、その主従が逆になってはいけません。その際、重要なのは政治家と官僚の距離。昔の自民党は距離が近過ぎました。政策を官僚に丸投げする依存体質が身につき、包丁が腕を振り回すというおかしいことになりました。一方「脱官僚依存」を掲げて政権奪取した民主党は距離を過ぎました。官僚排除により瞬く間に行き詰まったのは記憶に新しいところですが、包丁を持たない腕だけでは物事をさばくことはできません。野田総理には同じ轍を踏んでもらいたくはありませんが、今回の宿舍建設を巡る判断がブレたのは、やはり官僚との距離が近過ぎたため。官僚に取り込まれ、主體的に判断できていない。断らせて頂きますと、私は、官僚

を常に悪者に仕立て上げるメディアの姿勢にはいささか疑問を感じています。国家のために死に物狂いで働いている官僚は少なくないというのが、元官僚である私の正直な実感です。しかし、時として省益が国益に優先されてしまう現実や、前例を踏襲はできても前例を破れない官僚組織の限界も感じてきました。今、政治主導が求められている理由は、世界が大きく変化する中で、制度疲労をきたしている日本が自ら変わらなければならぬからです。官僚機構が自ら変わることはできません。

にもかかわらず、政治主導が進まないのは、官僚以外に頼れるものがないからです。つまり、霞が関が事実上、唯一のシンクタンク(政策研究所)となってしまう。霞が関の強みは、「情報量」と「政策力」。特に、後者については他の追随を許しません。したがって、政治が官僚に引きずられることなく、的確な判断を下すためには、官僚の他に別のブレーンを持つ必要があります。そうすれば、官僚にも緊張感が生まれ、相乗効果が生まれます。

その観点から二点。一つは、有力シンクタンクが出現することへの期待です。例えば、米国では、ブルックINGS、ヘリテージ財団、戦略国際問題研究所などの名立たるシンクタンクが多数存在し、実際の政策や世論に大きな影響力を有して

います。官僚制度の在り方を含め、制度上の違いにより、シンクタンクが我が国に育つ環境はまだ十分に整っていないとは言えません。そのような中で、先般、畏友である朝比奈一郎代表が立ち上げた「青山社中」などには、その先駆けとして活躍して頂きたい。

もう一つは、国会議員の定数を大幅に削減する代わりに、その削減額をもって議員一人あたりの公設スタッフの数を増やすことを提案します。例えば、米国では下院議員には約20名、上院議員には30〜50名のスタッフが存在します。しかも、法律、経済、広報等の専門家ぞろい。各議員が自前のシンクタンクを擁しているようなものです。その証左として、議員一人当たりの法案提出数は日本とは比較にならない数に上ります。一方、日本では、公費で手当てされる三名の秘書の他は、通常、私費で若干名の秘書が存在するのみ。議員定数の大幅削減と公設秘書の増加をセットにして、官僚機構に依存し過ぎることのない、少数精鋭の議員による「筋肉質」の立法府へと生まれ変わるべきです。

政治家の力が向上し、腕が包丁を使いこなせば、美味しい料理(政策)が出来るはずですよ。

平成二十三年十月初旬
自民党千葉県第二選挙区支部長

小林鷹之